2026
統一地方選
特別区

文京区長選

元区議の海老沢氏が再挑戦
ガブテックの小木氏も出馬へ

来年4月の統一地方選で行われる文京区長選に関し、元区議の海老沢敬子氏（62）が21日、都内で記者会見を開き、立候補する考えを示した。前兵庫県明石市長の泉房穂参院議員と実業家の「ひろゆき」こと西村博之氏が設立した政治団体「ひろゆき&いずみ新党（仮）」の支援を受ける。

政策では、子どもに課される国民健康保険の均等割りの無償化や、区長部局にいじめ相談室を設置することなどを訴えた。このほか、離婚した親が別れた子どもに支払う養育費を確保できるよう、離婚前に取り決めをするための公正証書作成を支援するとしている。


小木郁夫氏


海老沢敬子氏

海老沢氏は2007年、区議に初当選し、4期務め、区議会議長などを歴任した。23年には区長選に無所属で出馬し、落選している。

同区長選ではまた、新人でGovTech東京職員の小木郁夫氏（46）も22日、都庁で記者会見を開き、無所属で立候補する考えを表明した。政党の推薦については未定。

政策としては、「学び」への投資を強化するとし、区内19大学との提携し区民が学び直し（リスキリング）をする拠点とすることや、修学旅行の無償化相当額を全世代の区民に投資することを唱えている。海外大学の分校誘致も目指す。

このほか、30歳代以降の働き盛りの区外流出を止めるため、アフォーダブル住宅を増設する。区民提案型予算の導入で、一般会計予算の1％程度の約10億円を区民提案枠として運用する。主要な公約は達成の年限を明示する考え。

小木氏は京都大学卒。国会議員の政策秘書、外資企業を経て、23年にGovTech東京に入職した。

同区長選への立候補表明は海老沢氏と小木氏の2人のみで、現職の成沢広修氏は態度を明らかにしていない。